

ハイライトよねやま 95

(財)ロータリー米山記念奨学会
2008年1月15日発行

1. 寄付金速報 — 2008年も引き続きよろしくお願いたします —

12月までの寄付金は、前年同期に比べて0.9%減、約780万円の減少です。普通寄付金が2.0%減、特別寄付金は0.5%減と再び減少へと転じました。しかしながら、会員皆様のご協力の成果により、前年度と比較して個人平均寄付額は21地区で増加し、全国平均も100円アップしました。

なお、12月26日付で、「2007年度下期普通寄付のお願い」を各クラブ宛にお送りしています。普通寄付金は寄付行為に定められているように、全ロータリアンからクラブを通じて定期的にあいさつのご寄付です。当会活動の安定的な財源となっていますので、お早めにご納入くださいますようよろしくお願い申し上げます。

確定申告用領収証 ～ 1月末日までにお届けします ～

1年間(1～12月)で5,000円以上の特別寄付をされた方には、1月末日までに(確定申告に間に合うように)申告用の領収証と認定証の写しを各ロータリークラブ宛に送付します。

2. ガバナーエレクト／次期米山委員長合同セミナー開催

今年度の折り返し点を迎えた12月21日(金)、ガバナーエレクトと08-09年度米山奨学委員長を対象とする合同セミナーが都内で開催されました。

板橋敏雄理事長のあいさつに続き、小沢一彦RI理事による基調講演では、これまでご自身が関わったさまざまな実例をもとに、奨学事業を通じた人材育成や透明な寄付金管理の重要性が訴えられました。

関場慶博パストガバナー(2007-09米山記念奨学会選考委員)の特別講演『米山奨学事業を通して叶うロータリーの夢ひとつ』では、「ガバナー時代に夢物語として描いた“自力で留学できない発展途上国の優秀な若者を日本に招聘する奨学金制度”が、現地採用奨学金として実現したことに深い感動を感じる」と語った関場PDG。このプログラムが「多くのロータリアンの夢を実現しただけでなく、母国の将来のために日本の先進分野を学びたいと願う多くの現地学生に夢を与えている」と、力強く講演を締めくくりました。

続く分科会では、下記の5グループに分かれて、各講師による発表と参加者による熱心なディスカッションが行われました。

なお当日は、米山奨学生のモハメド・オマル・アブディンさん(スーダン/東京国立白うめRC)と楊珠玲さん(中国/福島RC)の卓話も行われました。アブディンさんは全盲というハンディキャップを感じさせない明るさで会場を笑いの渦に巻き込みながら、母国の紛争解決に向けた研究と視覚障害者への支援活動を続けていきたいと、今後の抱負を語りました。楊さんは「米山奨学生としてロータリーの活動に触れて初めて、他人の幸せを願って与えることの喜びを知った」「世話クラブと交流するうちに、毎月の奨学金を収入と思っはいけないと強く思うようになった」と語り、ロータリアンの深い感動を呼びました。



- | | |
|-----------------------------------|-----------------------|
| A. 「理解と感動～12年連続個人平均寄付額トップの背景」 | (講師:鈴木清次 第2590地区PDG) |
| B. 「新しい奨学金制度の課題と展望」 | (講師:関場慶博 第2830地区PDG) |
| C. 「事業の要は米山カウンセラー カウンセラーセミナーの重要性」 | (講師:渡辺喜代美 第2500地区委員長) |
| D. 「理解を広げるために～米山奨学事業アピールの実例」 | (講師:久世晴雅 第2770地区PDG) |
| E. 「基本をおさえ、工夫を凝らした地区米山奨学事業の事例」 | (講師:関 博子 第2750地区委員長) |

3. 母国のサイクロン被災者を救え 一米山学友 メスバ・ウディンさん



昨年11月15日、超大型サイクロン「Sidr（シドル）」がバングラデシュの南西沿岸部を襲い、甚大な被害をもたらしました。少なくとも4,000人を超える死者・行方不明者を出し、住む家や家畜・畑などの生活の基盤を失った多くの人々が今も寒さと飢えに苦しんでいます。

バングラデシュ出身の米山学友で、現在、九州大学で次世代IT技術者育成に携わるモハammad・メスバ・ウディンさん（2004-06/久留米東RC）は、母国の惨状を聞くや、ダッカ大学教授の義兄と相談して、特に大きな被害を受けたバルグナ州の被災者に義援金を送る活動を始めました。メスバさんから計画を聞いた周囲の友人・知人も積極的に協力し、続々と義援金が集まりました。その中には、世話クラブだった久留米東RCからの寄付金もありました。これらの善意は12月14日、メスバさんの義兄のアフジャル・ホセイン教授らが現地へ赴き、最も貧しく困難な状況にある被災者に支援物資や義援金として直接手渡されました。

メスバさんは「久留米東RCをはじめ多くの皆さまに協力していただき、心から感謝しています。今後は、災害予防のノウハウや被災者の支援方法について、いろいろなアイデアを集めていきたい」と長期的視野に立った支援を模索しています。（関心のある方はメスバさんまで：mesbahoo@yahoo.co.jp）



4. 日本語弁論大会で米山学友が準優勝！

昨年11月29日、留学生を対象とする日本語弁論大会が都内で開催され、米山学友の鄭企娟さんジョンギョン（韓国/2004-05/埼玉大学大学院/浦和東RC）が準優勝に輝きました。

同大会には33地域から223人が参加し、最終予選を通過した9人の留学生が流ちょうな日本語でスピーチをしました。

米山奨学生の時に倒れ、一時は余命宣告さえ受けたという鄭さんは、現在も再生不良性貧血という難病と闘いながら勉強を続けています。病名の告知や治療の苦しさに打ちのめされた時、支えとなってくれたのはロータリアンや日本の友人だったと言います。「来日したときは、一生懸命勉強して、仕事をして、おいしいものを食べて人生を楽しみたいと思っていた。でも、今は違う。自分のためではなく、人のために生きたい。本当の夢を与えてくれた国、日本が大好き」と語り、会場は感動の涙につつまれました。



★スピーチ原稿は当会ホームページに掲載しています

5. 学友の里帰り制度「米山学友ホームカミング制度」

巣立った米山学友が今どうしているのかを知りたい——。多くのロータリアンからの要望を受け、これまでの全世話クラブに対して昨秋、「米山学友の消息を尋ねる運動」を実施しました。その成果をクラブや地区で実感し、学友との交流をより強固にさせていただくために設立されるのが、学友の里帰り制度「米山学友ホームカミング制度」です。

この制度は、「米山学友の消息を尋ねる運動」によって判明した学友の情報をもとに、各地区につき毎年1名の米山学友を海外から招待し、地区内のロータリアンにその活躍ぶりを披露していただくものです。米山奨学会から上限25万円の補助費が地区へ支給されます。申請書類などの詳細は当会HPをご覧ください。<米山記念奨学会HP <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>>



2008年もよろしくお祈りします

(財)ロータリー米山記念奨学会
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15
黒龍芝公園ビル3F

Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281
E-mail : highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL : <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>
編集担当：野津・峯・大庭